

「檜皮の森」森林整備協定の取組について

木曽森林管理署 南木曽支署 森林整備官 ○齋藤 由晃
公益社団法人 全国社寺等屋根工事技術保存会 理事 河村 雅史

1 課題を取り上げた背景

檜皮葺（ひわだぶき）は日本固有の屋根葺技術で、起源は飛鳥時代とされ、奈良時代には宮殿や寺院に用いられ、平安時代には広く普及したとされています。現在、多くの国宝や重要文化財等の屋根に使用されており、約30年の周期で葺替えが行われています。檜皮採取者を原皮師（もとかわし）と呼びますが、昭和50年～60年ごろにはその数の減少と高齢化は檜皮葺関係者の中でも憂慮する状況となるとともに、平成に入り国宝、重要文化財などの檜皮屋根の修理に必要な檜皮の慢性的な不足が問題となり、これらのことから文化財の修復材としての安定供給と檜皮を採取する原皮師の研修フィールドの場として、森林整備協定を締結しました。取組を開始して20年が経過したことから概要を報告します。

2 取組の経過及び実行結果

（1）森林整備協定

森林整備協定は、名称を「檜皮の森」とし、平成14年度に中部森林管理局長と（社）全国社寺等屋根工事技術保存会長で、長野県木曽郡南木曽町^{しずも} 賤母 国有林702林班外の面積71.36haにおいて締結しました。20年間の主な活動としては、関連林道の除草、採取地までの歩道整備等を行ってきました。

（2）原皮師の育成

「檜皮の森」にて、檜皮採取技能者（原皮師）の養成研修に取り組んできました。原皮師については技術の習得に10年、熟練になるには20年以上必要となり、プロとしての原皮師となれるのは育成者全体の2割ほどとなっています。

（3）森林教育

木曽地方の小学校・高校・林業大学校等が檜皮採取見学を通じ、日本の伝統技術・文化財にふれあう取組として、原皮師を講師に見学会を行ってきました。

（4）檜皮採取実績

檜皮採取の実績を表-1にまとめました。人員は延べ4,300人程度で、採取木については、この20年間で3回目の採取木もありますが、延べ17,000本程度、数量で約70tになりました。

表-1 檜皮採取実績

年 度	人員（延べ）	本数（本）	数量（kg）
H13～17	92(1,209)	6,198	14,097
H18～22	72(768)	2,156	9,092
H23～27	117(1,264)	3,902	20,050
H28～R3	97(1,053)	4,318	26,255
計	378(4,294)	16,574	69,494

（5）立木、材質への影響

観察の結果、皮を剥いたことにより立木に与えた影響は認められませんでした。先行研究においても、剥皮木、対照木の直径成長に統計的な差は無い（2012、門松ら）、伝統的な檜皮採取技法により剥皮された場合、材質の良否を左右する影響は無い（2015、齋藤ら）とされています。今後も引き続き観察を続けていきます。

3 考察

20年の取組の成果としては主に4点あります。1点目は安定的・良質な檜皮採取については森林整備協定の継続による資源の確保と国有林のフィールド提供、2点目は継続的に職人の育成に協力、3点目は森林環境教育等に尽力、4点目は檜皮採取の安全性や効率性を踏まえた森林整備活動のバックアップを行ってきました。この4点については、今後も継続していきます。次に今後の課題として採取木にクマ剥ぎ等の被害が発生した場合は、早急な対策を行うこととしています。最後に今後の展望としては、檜皮はSDGsとしての持続可能な資源の活用であり、日本の伝統技術として、ユネスコに登録された世界遺産として未来に継承していくためPRを強化し普及啓蒙していくこととしています。